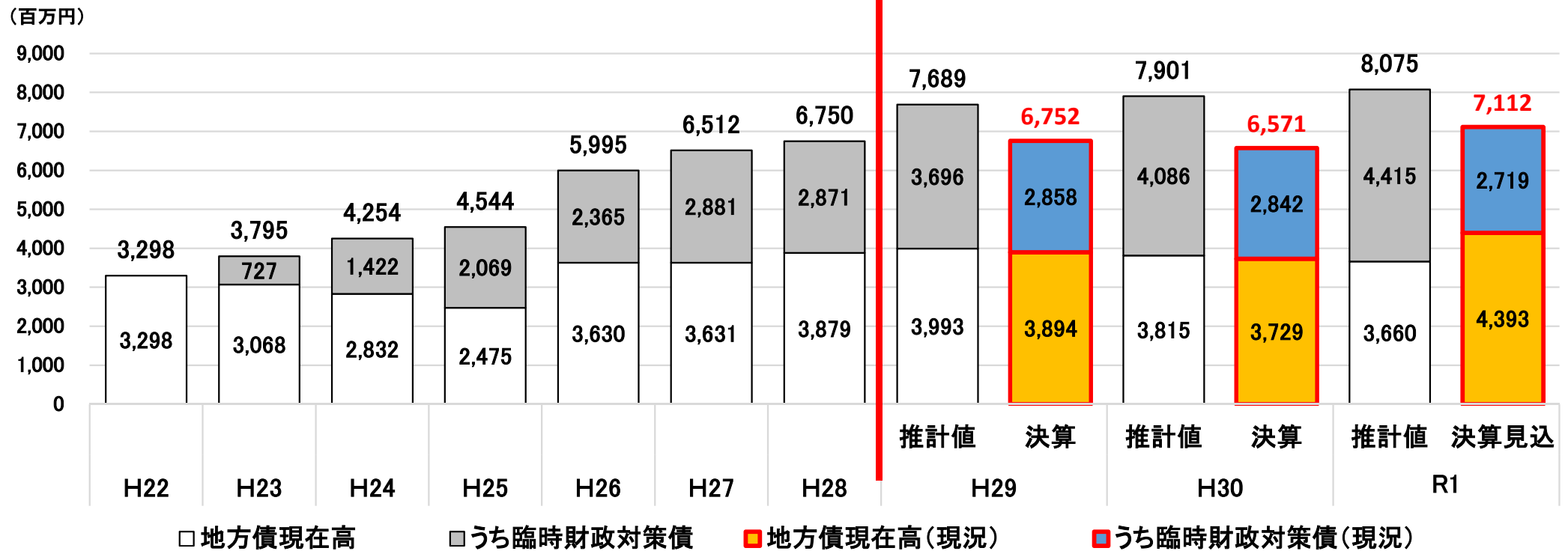


## 行政改革後の財政状況

---

# 地方債残高の推移(当初見通しと決算の比較)



出典: 決算カード(各年度)

H29~H31の推計値はH28策定の第1次財政計画による見込値

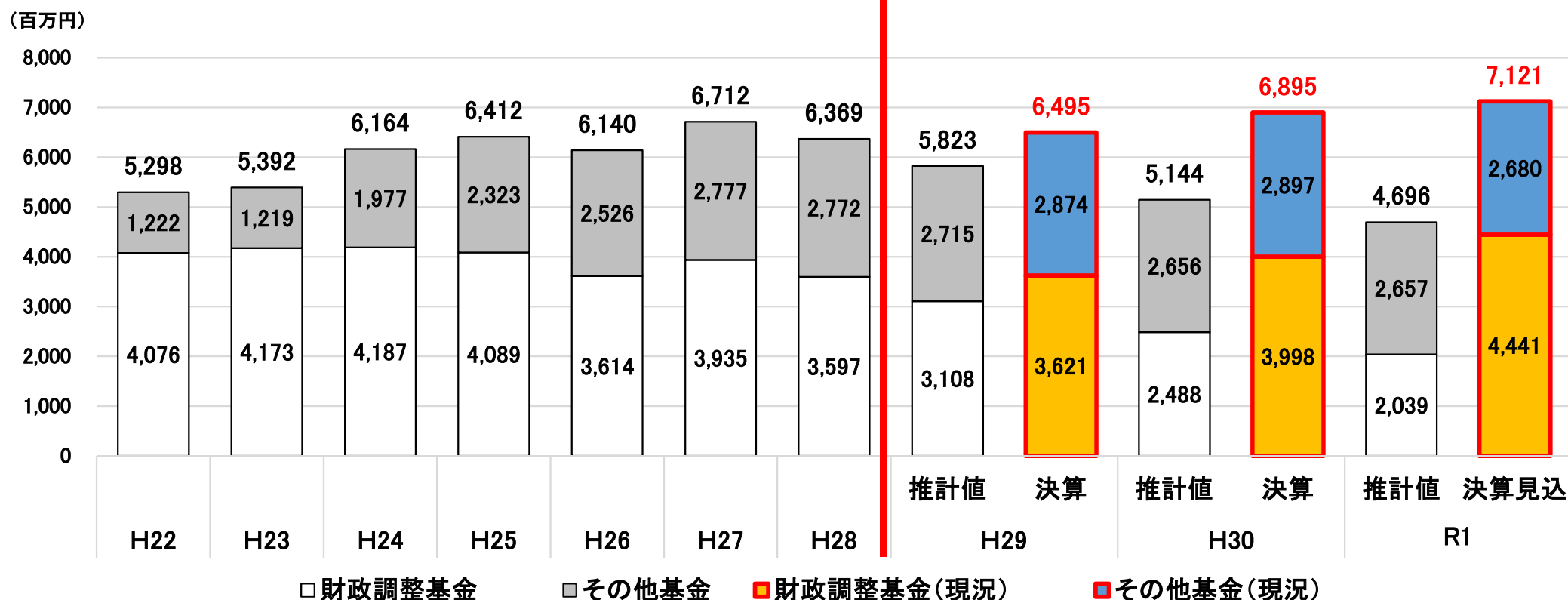
R1決算見込は推計値

平成30年度決算での地方債残高は、平成22年度から8年ぶりに地方債残高が減少したものの、令和元年度の現況推計では、近年の猛暑や災害復旧に充てるため、増加しています。

●臨時財政対策債は発行を抑制したことに加え、繰上償還したことにより、当初の見通しより減少しています。

●その他の地方債は、小中学校等の空調設備の整備や災害復旧に充てるため、当初の見通しよりも増加しています。

# 基金の推移（当初見通しと決算の比較）



出典：決算カード(各年度)

H29～H31の推計値はH28策定の第1次財政計画による見込値

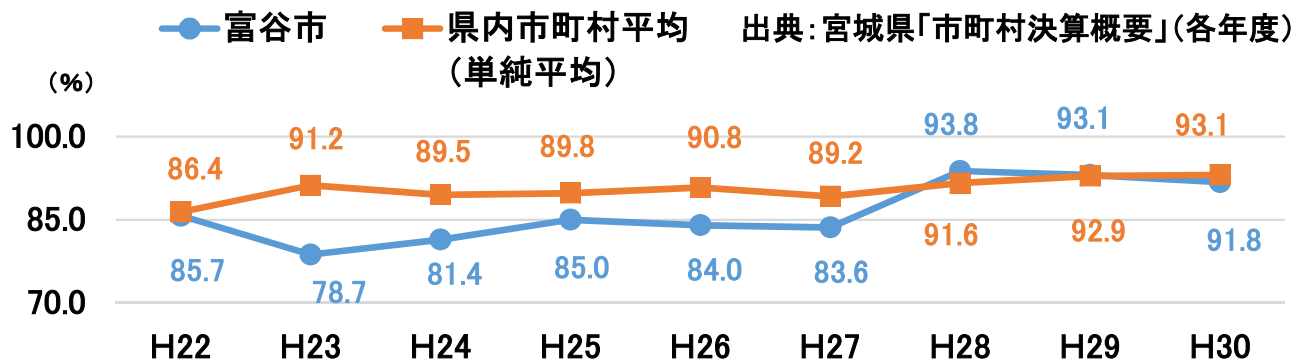
R1決算見込は推計値

●行政改革や財政運営を通して、歳出削減と歳入確保の両面から様々な取組を進め、財政調整基金からの繰入れを抑制したことにより、当初の見通しよりも基金残高は増加しています。

# 主な財政指標の推移

## ◆経常収支比率

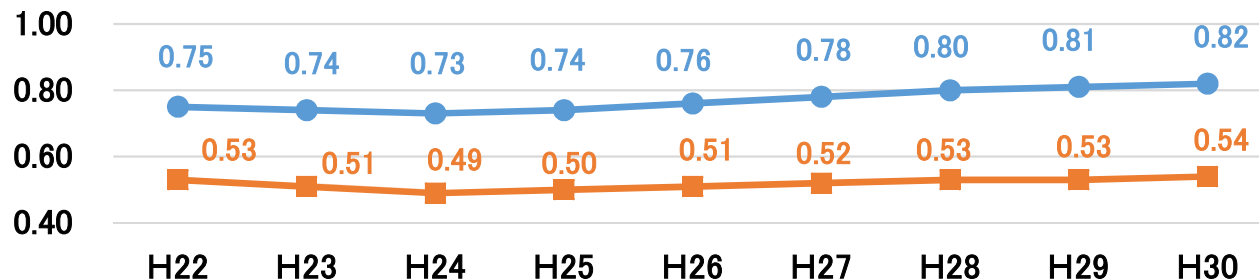
※財政構造の弾力性を判断するための指標。数値が高いほど弾力性が失われつつあるとされる。



●平成28年は、市制移行に伴い、福祉事務所が開設されたことなどから、生活保護費等の扶助費の増加により経常経費は大きく上昇しましたが、事業見直しなどにより、平成30年度決算では、県内平均を下回っています。

## ◆財政力指数

※地方交付税法の規定により算定される基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3カ年の平均で「1」に近いほど財源に余裕があるとされる。

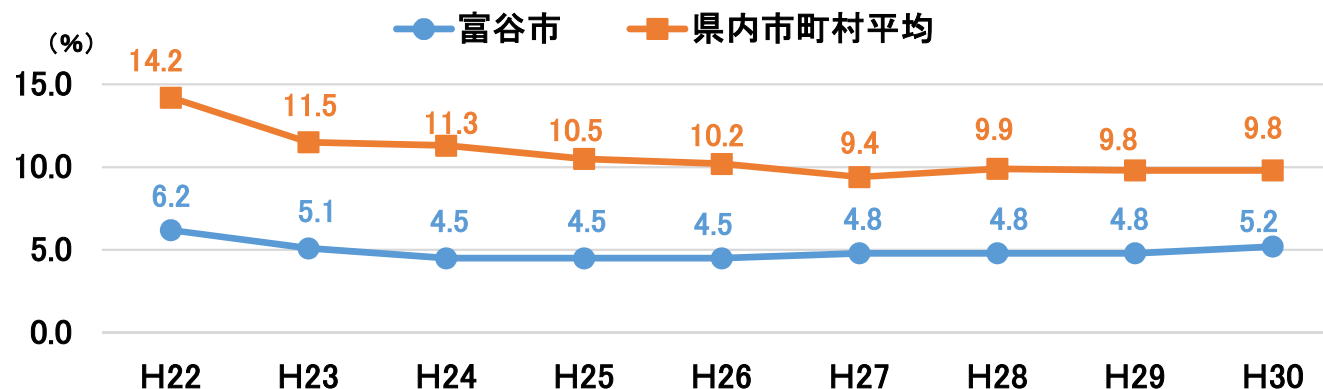


●財政力指数は、県平均を大きく上回り、微増ですが年々上昇しています。

# 主な財政指標の推移

## ◆公債費負担比率

※地方債の償還に充当された一般財源の一般財源総額に対する割合



●公債費負担比率は、県内平均を大きく下回っていますが、平成26年度に建築した明石台小学校建設に係る償還が始まったことなどにより上昇しています。

## ◆実質単年度収支

※歳入歳出決算額から翌年度に繰り越す財源を差し引き、更に実質的な黒字要素や赤字要素を差し引いた額

(千円)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
実質単年度収支	▲627,436	487,461	▲477,143	▲529,044	▲510,999	▲184,846	▲402,958	▲262,671	348,045

出典：決算カード(各年度)

●実質単年度収支は、平成23年度以来、7年ぶりに黒字に転じました。